



昨年4月1日には、彦根市ホームページが開設
http://www.city.hikone.shiga.jp にぜひ一度アクセスを

ひこね21世紀創造プラン

市民がつくる
安心と躍動のまち
彦根

1. 人権が尊重され、誰(だれ)もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はぐく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

彦根市の情報化 特集

「彦根市情報化基本計画」を策定
情報化ですすめる、ひと・まちの交流と連携

新時代への案内図
「彦根市情報化基本計画」を策定しました

21世紀は、高度で多様な情報社会が実現すると言われています。その中でも、インターネットが普及することで、世界のコンピュータがネットワークでつながって、人と人と企業などが瞬時に結ばれるようになりまし。

一昨年、市が行ったアンケート調査では、市民の45%がパソコンを所有し、そのうちの約80%がインターネットに接続されているという結果が出ました。今後接続する予定の人も含めると、約95%にもなります。インターネットを通じて、人と、社会と交流したいと望む市民が、たくさんおられると考えられます。

インターネットは、市民と行政をつなぐものとしても期待されています。インターネットを使って、必要とする情報を、市民がすばやく知ることができたら、また、市役所に出かけなくても、市民がさまざまな行政サービスを受けることができれば、インターネットは市民福祉の向

上に役立つに違いありません。

市が、インターネットやコンピュータを活用して、市民や、会社や、お店などのためにできることに何があられるでしょうか。また、それを実現するためにどんな問題があつて、どんなことに注意しなければならいでしょうか。それらを明らかにしたのが、今年3月に策定した「彦根市情報化基本計画」です。この計画は、今後8年間の本市の高度情報化の方向を示し、また、施策を実施するときのガイドラインとなるものです。

「彦根市情報化基本計画」その「コ」は何？

コンピュータやインターネットは、かつては専門家にしか使いこなせないと思われていました。しかし、新しい技術を活用して、高性能、高性能になることで、専門家以外の人にも気軽に使えるようになってきました。さらに技術開発が進めば、高齢者や障害を持つ人などを含めて、あらゆる人にとってさらに身近な存在になっていくでしょう。今後、コンピュータやインターネ

成されたとき、そこには何が描かれているのでしょうか。

その一つが「電子自治体」です。「電子自治体」では、業務がすべて電子化され、インターネットでほとんどのサービスを受けることができます。インターネットの中に、市役所の総合的な窓口を作ってしまうのです。

もう一つは、「地域ポータルサイト」の実現です。

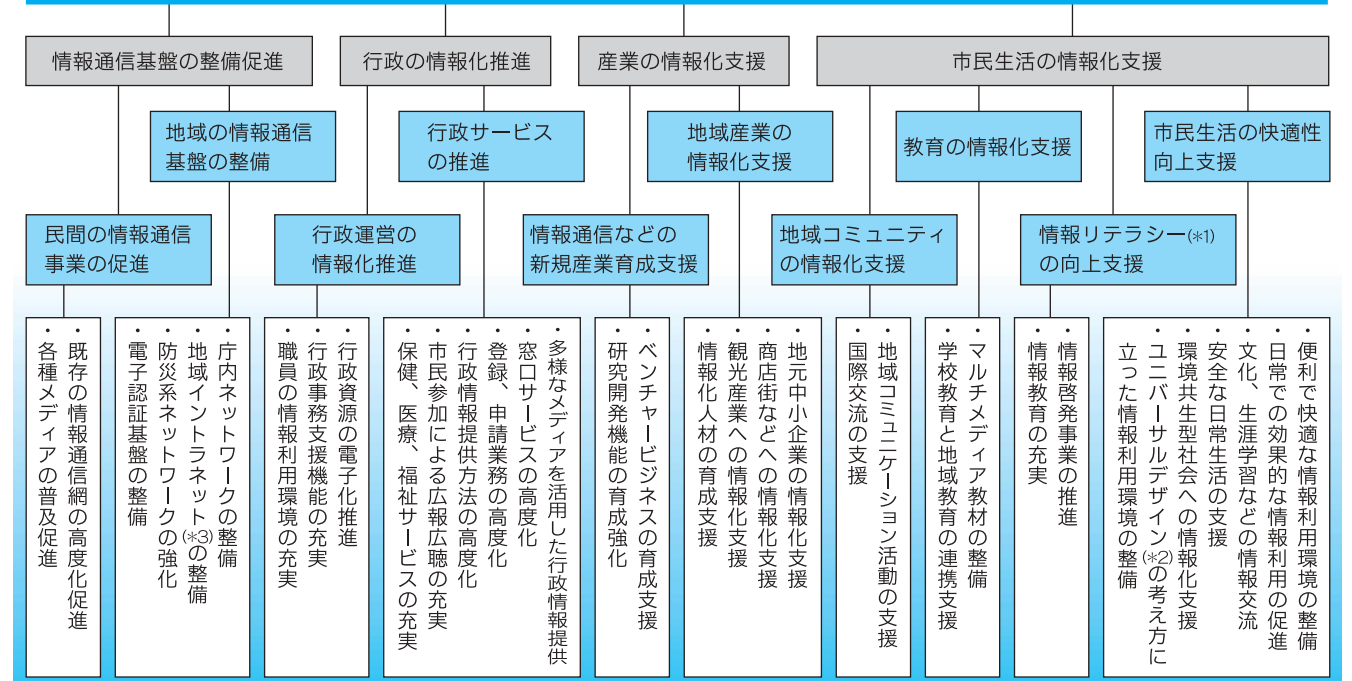
「ポータルサイト」は、インターネットに入る玄関の役割をするホームページをいいます。「地域ポータルサイト」は、インターネットの中の彦根の「まち」に入るための玄関です。その「まち」では、インターネットを通じてさまざまな人と交流したり、自治会活動に参加したり、買い物をしたり、歴史や文化に触れたりできます。「地域ポータルサイト」は、「まち」全体が最も高度にインターネットを利用した姿と言えるでしょう。

情報社会の気になるところ

「基本計画」の描くまちの姿は、あらゆる市民の生活にインターネットが深くかかわります。そのため、今まではなかったことも考えなくてはなりません。

その一つが、個人情報の保護です。行政や企業のコンピュータに記録された個人情報、第三者に漏れて正しくない使われ方がなされないよ

彦根市情報化基本計画



(*) 情報リテラシー ネットワークを使って情報を収集したり、発信したりする能力のこと
 (**) ユニバーサルデザイン できるだけさまざまな人にとってまちやものを使いやすくすること。
 (***) イントラネット インターネットの技術を利用して構築される企業内情報通信網のこと

紙上談話室 13

彦根市情報化基本計画を策定しました

彦根市長 中山 一

情報の最も簡単な定義は「お報せ」でありますが、より正確な定義は「生活主体と外部の客体との間の状況関係に関するお報せ」なのです。

ところで、私も彦根市では、平成4年度に地域情報化基本計画を策定し、地域の情報化を進めてきました。近年のインターネットの急激な普及や情報通信技術の進展などにより、情報化は地域社会をはじめ社会構造そのものに大きな影響を与えています。

このような状況のなか、高度情報社会に対応した情報化を図り、市民を主体とした個性豊かなまちづくりの展開に資することが必要となってきたため、前述の基本計画を見直す必要が生じてきました。そこで、総合的、計画的に本市の情報化を推進するため、これまで別々に検討されてきた庁内を中心とした行政情報化と、市民生活を支援するた



め、地域情報化とを包含した「彦根市情報化基本計画」を策定することとしました。この基本方向としては、これまでの情報化に対する取り組みや、市民や企業などの住民ニーズを踏まえ、市民満足度の向上を目指した「電子自治体」への対応と、市民の情報利用窓口の充実・高度化に向けた「地域ポータルサイト」の実現を目指すものとし、さまざまな情報化施策を検討してまいります。

基本目標としては、

- 1 市民生活の情報化支援
- 2 産業の情報化支援
- 3 行政の情報化推進
- 4 情報通信基盤の整備促進

とし、「情報化ですすめる、ひと・まちの交流と連携」を基本理念として推進していきます。

なお、推進にあたっては、個人情報・知的所有権の保護、セキュリティ対策、デジタルデバイスへの配慮、技術革新・法制度等への対応についてじゅうぶん留意をいたします。

う、嚴重に守られなければなりません。

また、コンピュータの操作が苦手な人や、インターネットについてあまり知識のない人が、そのことで不利益を被ることのないように考慮されなくてはなりません。例えば、行政サービスを提供するシステムを作るときには、操作が難しくならないよう工夫をする必要があります。また、従来どおりの直接対面する窓口サービスも継続していく必要があります。

新しい地域をつくる

「彦根市情報化基本計画」を具体化し、進めるためには、市が与えられた役割を果たすとともに、市民一人ひとりのまちづくりへの参加が大切です。皆さんの住む地域でも、インターネットを利用することで新しい可能性が見えてくるかもしれません。情報社会のなかでの、自分たちの地域のあり方を、もう一度考えてみませんか？

問い合わせ先 市情報政策課
 ☎ 1411 番内線 439 番
 FAX ☎ 1398 番
 E-mail: johokikaku@ma.city.hikone.shiga.jp

市民に情報をどう発信するかが課題

小幡 善彦さん (立花町)



いろいろな情報が氾濫するなかで、情報の受け手は、自分に必要な情報をつまみ、容易に入手できるように工夫しなければなりません。一方で、日常生活に密着した行政情報は、いつでもどこでも、だれでも簡単に受け取れることが求められます。そのために、情報の発信側である行政と、受け手の市民との間で、よりよい、効果的な発信システムを作り上げていくことが、今後必要になると思います。

弱者に優しいすばらしい計画ができました

谷沢 典子さん (平田町)



弱者への心配りを網羅した、すばらしい基本計画ができました。今後具体化する際には、どの施策を先に実行するか、優先順位を慎重に検討していただくよう切望します。

私も含めて、パソコンやインターネットが苦手という人も多いと思いますが、そんな人たちが安心して参加したい、人に優しい基本計画を立てようと思ったり、環境、商業、子育て、それぞれ立場の違う委員どうして議論したり、市民のニーズやほかの自治体の例を調査したり、市職員の検討会での意見を反映させたりと、大がかりな懇話会でした。

わたしたち、基本計画作りに参加しました

「彦根市情報化基本計画」は、大学教授、通信事業関係者など10人からなる「彦根市情報化基本計画策定懇話会」の報告書が基礎と

なりました。ここでは、懇話会に参加された公募による4人の市民委員の声を紹介します。

情報格差やセキュリティが心配でした 坂本 拓行さん (大藪町)



彦根市で情報化が進んだときに、経済的理由や身体障害の有無、年齢、言語の違い、情報技術に関する知識などで、情報格差が生まれるべきではありません。また、電子的な個人情報データのベース化が進んだとき、セキュリティ対策もじゅうぶんになされるべきです。

これらについての問題意識は、私がこの懇話会に参加するきっかけとなったものでしたが、実際に懇話会のなかで、たくさん時間を割いて話し合われ、基本計画にも反映させることができました。計画の策定に携われて良かったと感じています。

「地域ポータルサイト」に期待します

中野 啓子さん (日夏町)

私は「彦根子育てネットワーク」や子どもの遊び場「彦根プレーパーク」など、子育て活動にかかわっています。日ごろから世代を超えた交流をしたいと思っていたので、特に「地域コミュニティの情報化支援」に興味を持ちました。インターネット上に「彦根」のまちをつかって、インターネットを通じて地域住民と交流したり、電子商店街を実現したりなど、「地域ポータルサイト」を目標にあげています。もし実現すれば、幅広い年代の人と出会ったり、彦根のお店をもっと知ることができたり、さらにインターネット上だけでなく、顔と顔を合わせられるような交流ができるかも、と期待しています。

